



木村和夫*

無線通信システムの現状と今後の展望

要 旨

e-life, e-businessの進展の中で、私たちの暮らしの中で膨大な量の情報がやり取りされており、無線通信システムのソリューションにも、高速・大容量で信頼性の高い品質が求められている。

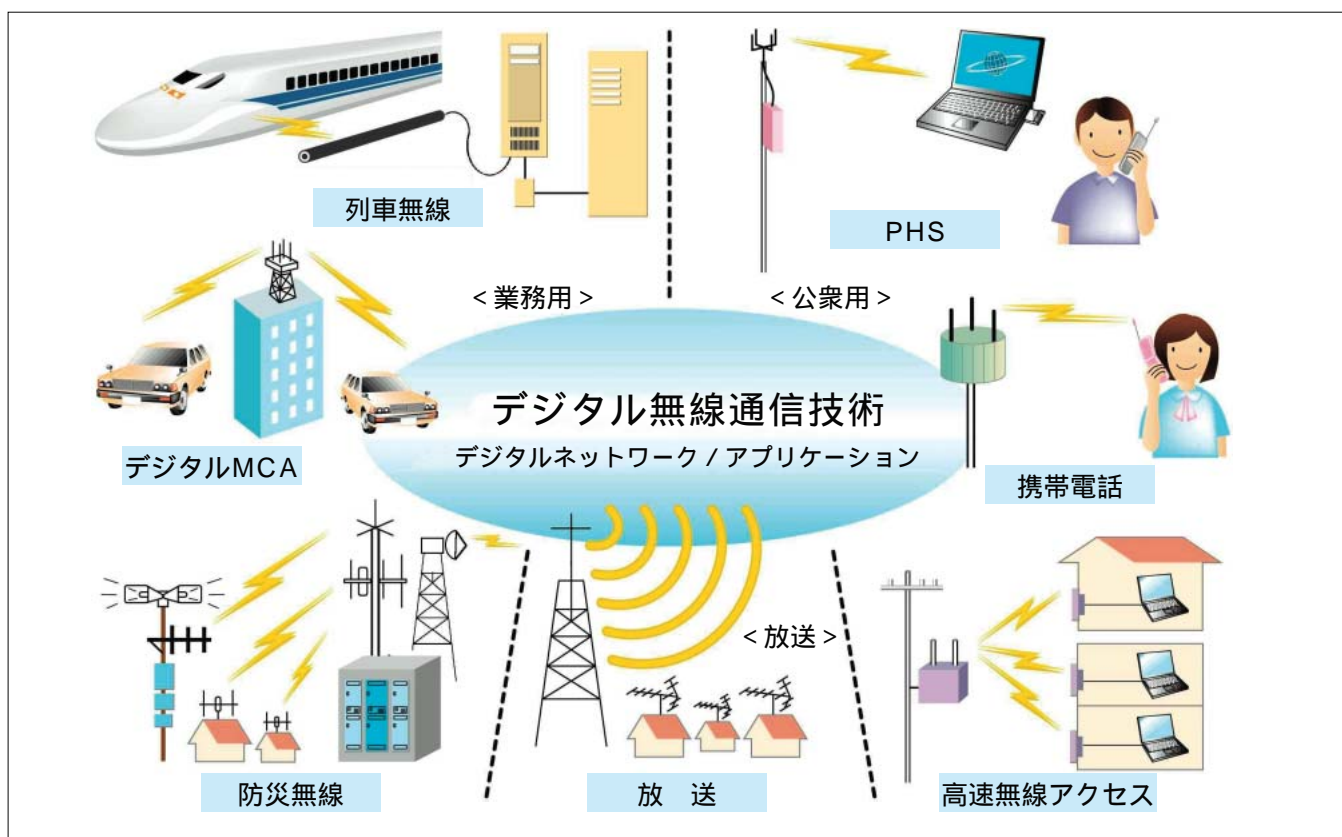
携帯電話は、2002年度の加入者数が国内で8,205万人、全世界では113,550万人となり、生活に欠かせないツールとなっている。携帯電話は、いわゆる電話だけでなく、写真伝送、メール、インターネットアクセス、モバイルバンキングを可能とし、ユーザーは無線通信の便利さを認識し、無線を介して大量のデータをアクセスするようになってきた。

このように、携帯電話には、データ通信がより高速にでき、高トラフィック、利便性の良さに対応できるシステムが求められ、第3世代と言われるシステムへの移行が進み始めた。

また、家庭のブロードバンド化に伴いADSL(Asymmetric Digital Subscriber Line), FTTH(Fiber To The Home)のユーザーが増加しているが、ラスト1マイルのアクセス手段として、高速でしかも手軽に設置が可能な無線によるアクセスシステムの進展も期待されている。

一方放送では2003年12月に三大広域圏で地上デジタル放送が開始され、全国的には2006年末までに始まる予定であり、デジタル化による高画質、データ通信機能が可能となる。

三菱電機は、早い時期から業務用無線や公衆用無線のデジタル化に取り組んできた。この特集では、公衆用無線、業務用無線及び放送等に関連したシステムの現状と、それを支えるデジタル化技術及び当社製品を紹介し、その展望を述べる



デジタル無線通信システム

様々な無線通信システムがデジタル化により更に高度化され、ユビキタスネットワーク時代の実現に向けて、周波数行政とも歩調を合わせながらワイヤレス情報社会へと進化を続けている。当社はこれからも、技術の進展に伴い、更に新しく便利な無線通信システムのソリューションを提供する。